

No 27  
2017.3

# NEWS LETTER

東邦看護学会

## 第16回東邦看護学会学術集会を終えて

第16回東邦看護学会学術集会 大会長 横井 郁子



12月17日、第16回東邦看護学会学術集会を無事に終えることができた。参加者は約330名。そのほとんどが東邦大学医療センターの3病院の看護職である。毎回思うことだが、この参加者数は驚異的である。だからこそ現場看護職に少しでも役立つ、参加して良かったと思っていただけるものにしたい、そして、東邦大学看護学部で開催することで「身近な学術集会」として定着し、愛着も持っていただけるものにしたい、そのためには誰が運営しても負担とならぬようにしなければ。今回は学術集会運営の効率化と情報発信に重点を置いた。

### 1. 学術集会の運営をシンプルにする

今まで学術集会の企画運営は東邦看護関連施設の学会員で構成していた。これをやめた。学会は学会理事長と学会員でさまざまな決め事をしているが、学術集会は学術集会長に全てが委ねられる。そこでシンプル運営、身近な者たちでの運営を試みた。日時、場所は今まで通り。当日の運営や会場設営は諸先輩方が試行錯誤して今がある。それを生かさせていただくこととした。したがって、検討は数回で終了とし、準備のための会議開催回数は例年より多いぶ少なかったと思う。

次に広報活動。ポスターは業者に依頼。印刷業は昨今競争が激しく、そのおかげで価格も手頃となっている。さらなるサービスとして、業者から複数の場所へ発送してくれるこもありポスター掲載内容とデザインが決まれば業務終了である。また、抄録に掲載してきた広告であるが、今までの学術集会は赤字運営にはなっていない。ならば広告収入は不要と決断した。ウェブサイトは自力で更新。タイムリーでかつ費用をかけずに更新することとした。

当日の運営は多くの学生バイトを活用した。学生にとつては学会の運営も内容も勉強になる良い機会である。実際、仕事をしながら興味深く発表を聞いているようであった。

事前参加費をウェブサイトでのクレジットカード支払いとしたことが一番の心配であったが、ほとんど混乱なく、それどころか、事前登録・支払いが予想以上に多く、会計作業は大いに助かった。今の時代だからこそその結果だろう。

### 2. 多忙極める現場の看護を発信する機会をつくる

大学内に関わらず、医療関連施設内でも研究倫理審査委員会を設けていることが普通となる時代に突入している。そのような現状を受けて、研究倫理審査を通過している研究はできるだけ発表していただき、本学術集会での審査を簡略化した。そして、これら発表抄録も研究データベースに登録されるよう、今回の抄録集から学会誌の第1号となることとなった。これは東邦看護学会の決定である。

一方、看護実践の現場は短時間で実施・評価を繰り返しながら、個々の患者、新規定などに対応している。思考過程は研究の過程とほぼ同じである。しかし、見切り発車で実践し、熟考が足りなかったと反省することもしばしばある。そこで、今回の学術集会では「日々の取り組み」として上記のような実践を報告していただき、第三者とともに熟考する機会を学術集会に設けた。予想どおり活発な意見交換が行われ、研究への第一歩となったのではないかと期待している。

多忙だからこそ立ち止まり振り返る時が必要であり、そのための学術集会の運営を模索してきた。今後も東邦看護学会員には看護のおもしろさと厳しさ、そして、奥深さをタイムリーに発信していただきたい。そんな学術集会に一步でも近づけていたらこれ以上の喜びはない。





## 学術集会に参加して

**森 洋子**

(東邦大学佐倉看護専門学校)

第16回東邦看護学会シンポジウムは、「療養環境と看護」というテーマで行われた。山本千恵美氏は東大病院の2回にわたる再開発計画に関わった経験から、患者にとってどのような施設が必要なのか、看護者として自分の考えを明確にすることが重要であると述べられた。また小菅瑠香氏は、病棟の個室化をすすめた病院のスライドを活用しながら、個室化が利用者の行動に与えた変化について報告された。最後に落合和弘氏は、病院の改築にあたり看護職の「療養空間は、患者の回復力や生命力に影響を与える。」との意見を取り入れた新病院を紹介された。看護師は病院の中で、患者が今いる療養環境を最良の状態に調整することを行っている場合が多い。しかしこれからは、看護師としての意見を取り入れた、患者にとって最適な療養環境を持つ施設を作ることができたのだと、喜びを感じた。

**神部 雅子**

(東邦大学医療センター大森病院)

第16回東邦看護学会学術集会は、天候にも恵まれ会場は朝から多くの参加者で賑わっていた。「療養環境再考」をテーマに、病院建築の専門家でいらっしゃる筧淳夫先生のご講演と、シンポジウムで様々な異なる立場の方のお話をうかがい、当たり前に見えていた日々働いている環境を見直す機会を頂いた。また、「日々の取り組み報告」では、職場の課題解決に向けた取り組みや専門的な能力を生かした活動が報告され興味深かった。会場からの質問を端に、議論が活発に行われて、報告者自身が新たな発見をしている様子が印象的だった。

議論は、当たり前に感じている環境や、日々の取り組みについて様々な角度から見直すことができる場であると、学術集会に参加して改めて考えさせられた。相互の理解を深め新たな発見ができる職場であることを意識し続けたい。

**大森 礼織**

(東邦大学医療センター大橋病院)

今回の学術集会で新たに設けられた「日々の取り組み報告」は、看護の現場で抱える問題や課題に対する報告に対し、会場内では活発な議論が交わされ活気あふれる時間となりました。

また、特別講演やシンポジウムでは、これから高齢社会においては一般病棟の高齢化と重症化を念頭におき、療養環境を整えることが重要であるということを実感しました。特に筧淳夫先生のご講演にあった「ことのデザイン」を行った上で「もののデザイン」を考えるということは、これまで考えたことのない視点でした。現在大橋病院では、平成30年の新病院移転に向け、様々な準備を進めています。今回伺ったお話を少しでも新病院に反映できるよう、今後も努力してまいります。



## 研究支援金を受賞して

**富井 秋子** (東邦大学医療センター大森病院)

私は現在、東邦大学医療センター大森病院で業務改善委員会の委員長として日々委員会活動に取り組んでいます。医療の機能分化が進む中、急性期病院では重症患者が増加し、看護業務も年々煩雑化しています。

委員会では、煩雑化した看護業務を整理し、看護本来の業務を看護師が行えるよう業務改善をしてきました。しかしさらなる業務改善が課題となっています。業務改善を行うためには、現在の客観的な業務量の把握と数値化が必要であり、業務量調査の実施が、今年度の看護部目標となりました。それを業務改善委員会が担当することになりました。

4年前には時間外調査を実施し学会発表させて頂きましたので、今回の業務量調査を研究として取り組むかをメンバー11名に確認したところ、全員前向きな考えでした。

委員会の取り組みは業務量調査のみではありません。少しでも調査の負担が軽減できればと考え、研究支援金に応募することになり、今回受賞させて頂くことができました。内容を評価して頂き有難うございました。研究支援金を有効活用し、研究活動を進めていきたいと考えています。

日頃から委員会活動は学会発表できる内容が多いと感じています。皆様も日々の委員会活動に支援を頂き、研究として学会発表を行い、他の会員の方に情報を発信し共有していくことができたらと思います。



## 学術集会賞受賞者の声



### 池田 麻美 (東邦大学医療センター大橋病院)

初めての東邦看護学会学術集会への参加でした。前年からの引き継ぎ研究で成果を出せた年であったので、学術集会賞をいただき大変うれしく思っています。

手術室看護師は、手術という“非日常的なストレッサー”に日常的に「長時間さらされている」ことから、病棟看護師とは異なる“ストレス”があるのではないかと考えました。手術室看護師のストレスについて分析するため、2012年「手術室看護師ストレス尺度7因子32項目」を作成し、2016年全国の国公立私立大学病院を対象に調査しました。項目精選・信頼性・妥当性の検討後、「手術室看護師ストレス尺度3因子22項目」の手術室看護師の

経験年数別ストレス分析を行い、ストレスの傾向を導くことが出来ました。今後、手術室看護師のストレスの把握とそれに対する対策を考えるきっかけになることを期待しています。

研究成果を発表し、賞をいただいたことで、自分たちのやってきた成果が評価されたことに達成感を得ることが出来ました。今後、論文作成を行い、関連学会に投稿予定です。看護研究に携わっていただいた関係者の皆様に感謝いたします。

【研究課題名】 「手術室看護師ストレス」の経験年数別ストレス分析



### 菅谷 由里 (東邦大学医療センター大森病院)

平成27年度より看護研究を開始し、約1年にわたり研究メンバーと何度も話し合いを重ねて、院内での論文発表に至りました。しかし今回の研究で取り上げた題材は精神科病棟の独自性が強く、実際に関わっていないければ、イメージしづらい内容であったため、研究内容がきちんと伝わっているのかどうか分からず不安が残るものでした。今年度、東邦看護学会で学術集会で再度発表することが決まり、前回の発表での反省を活かし、論文の内容をより良いものにしたいという思いが強くありました。院内発表では時間の都合上お伝えできなかつた内容を今回の発表に加えることで、より内容を深めた状態で

皆様に発表することができたと思います。その結果、研究内容が認められ、受賞に至ったことは、大変喜ばしいことであり、今後もこの研究を続けていくことへの励みにもなりました。今回の研究内容を病棟に持ち帰り、病棟運営に少しでも役立てられるように、試行錯誤していきたいと思います。

【研究課題名】 高齢精神障害者入院パス施行の阻害要因に関する研究について



### 中澤 絵里奈 (東邦大学医療センター大森病院)

今回の看護研究は、当病棟で入院中に成育日記を使用していた母親の思いを知り、成育日記がどのような影響を与えているかを明らかにしたく実施しました。成育日記とは、担当看護師が日々の児の様子を記載し、両親に面会時間外の児の様子を伝えるためのノートです。看護研究を実施し母親の思いを知り、成育日記が母親にとって大切な存在であることがわかり、成育日記を記載する責任を改めて感じることが出来ました。また、成育日記を通して児の様子を伝えるだけでなく、母親の思いに寄り添い共感することで看護師との信頼関係を築くきっかけとなっています。信頼関係を築くことにより母親が思いを表出しやすくなり、気持ちの整理ができ、今後の育児に対し前向きになることができます。児を育てるごとに前向きな気持ちになることは、母子の絆を深め愛着形成を促すことに繋がっていくと考えられます。今後の課題として、運用を見直し改善できる点があることも明らかになりました。そこで本研究結果を病棟にかえし、成育日記をより効果的に運用できるよう検討していきたいと思います。

【研究課題名】 成育日記が母親にどのような影響をもたらしたか



### 村田 磨紀 (東邦大学看護学部)

私の研究テーマは、「急性期病院における病棟看護師の退院支援実践力と共感および倫理的行動の関連」です。先行研究では経験年数や職位、在宅介護経験の有無によって退院支援の実践に有意差があると報告されていますが、単に経験年数や職位などでは量れない看護師個人の資質も退院支援の実践に影響するのではないかと思い、本研究を行いました。現在、退院支援における院内教育プログラム内容において、社会資源関連が最も多く実施されていますが、本研究の結果から、このような知識補充型の研修と共に共感や倫理的行動を高められるような教育環境も必要であることが示唆されました。知識や技術が重要視される傾向にある中、共感や倫理的行動といった看護実践の基盤に再度焦点をあてようとする本研究を、東邦看護学会学術集会に認めていただけたことはとても嬉しく光栄に存じます。本研究にご協力いただいた病棟看護師の皆様、ご指導いただいた先生方に深くお礼を申し上げると共に、今後とも看護の発展に寄与できるよう精進してまいりたいと存じます。

【研究課題名】 急性期病院における病棟看護師の退院支援実践力と共感および倫理的行動の関連



## 第17回東邦看護学会学術集会の紹介

第17回東邦看護学会学術集会 大会長 出野 慶子



第17回の大会長を務めさせていただきます看護学部の出野です。今年度の第16回学術集会では横井大会長の発案で、初めて「日々の取り組み報告」を取り入れたところ、11演題のエントリーがあり、当日はポスターセッションで活発な意見交換が行われていました。

また、今年度より学会誌発行が年2回となり、1号は学術集会抄録集ですので、皆様の日々の実践を世に発信する機会になっています。これらをさらに研究として発展させ、その成果を現場に還元することは、看護の質の向上にもつながります。

そこで、第17回学術集会のテーマを『研究のシーズを実らせる』とし、今回も「日々の取り組み報告」の演題を募ることにいたしました。メインの教育講演には、現在のところ、日々の実践を研究に発展できるようなプログラムを予定しております。

不慣れな大会長ではありますが、学術集会の運営はコンパクトで効率よく行い、皆様にとって有意義な学会となるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 広報委員会よりニュースレターの 廃止に関するお知らせ

委員長 鈴木 加乃

広報委員会では、多くの皆さんに東邦看護学会を知っていただき、入会していただけるよう活動をしています。

このたび、紙媒体で年2回配信していたニュースレターを今号で廃止することが理事会で決定されました。その理由は、よりタイムリーに、また多様な情報発信を目指して、随時メールによる発信をしていくため



です。今後準備が整い次第、会員情報として登録されているメールアドレスに随時お知らせ等を配信する予定です。

会員の皆様には登録情報の確認を4月以降にお願いしてまいります。

なお、会員登録情報の確認・変更は東邦看護学会ホームページ上で随時行えます。

(URL : [http://www.n-gakai.toho-u.ac.jp/  
change/index.html](http://www.n-gakai.toho-u.ac.jp/change/index.html))

ホームページのさらなる充実も図りますので、皆様からの様々な情報や要望をお待ちしています。

(広報委員会の連絡先は下記のとおりです。)

東邦看護学会広報委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03-3762-9881

FAX 03-3766-3914

E-mail:[tohokango-koho@ext.toho-u.ac.jp](mailto:tohokango-koho@ext.toho-u.ac.jp)